

環境掲示板

森のふくろう 剪定などの樹木の管理

主催 森のふくろう（緑のボランティア
講座終了生の会）

日時 7月12日（土）10:00～15:00

7月26日（土）10:00～15:00

場所 北野中央公園 北野3-6-45

対象 会員及び趣旨に賛同する人

問合せ 大徳 daitokufamily@h4.dion.ne.jp

木工教室・竹とんぼ作り

主催 三鷹市ごみ対策課

日時 7月20日（日）～8月31日（日）

の開館日（水、木、土、日）

対象 廃材を持参できる方 無料

場所・申込 三鷹市リサイクル市民工房
0422-34-3196

第37回井の頭かんさつ会

主催 井の頭かんさつ会

日時 7月27日（土）10:00～12:00

事前に申込みが必要 費用300円

申込み 大原 kapock@parkcity.ne.jp

HP URL <http://www.kansatsukai.net>

夏休み親子多摩川源流体験講座

日時 7月31日（木）7:30～18:00

編集後記

小さな紙面に少しでも多くの情報を載せることに苦心しました。これらの情報が、お役にたつことを願っています。（安達）

地上35mになりなんとする新ごみ処理施設が計画されている。こんな大きな焼却施設ををする生活をいつまで続けられるのだろうと考えつつ、集団回収に参加し、生ごみを緑のコンポスターに入れる。（山本）

場所 山梨県小菅村

対象 小学生以上の子供とその保護者

定員 親子10組（抽選）教材費300円

申込・問合せ 社会教育会館 0422-49-2521

野川・生きもの観察会

主催 野川流域連絡会生きもの分科会

日時 8月3日（日）10:00～12:00

集合 野川公園「自然観察センター」前

申込 野川流域連絡事務局 042-330-1845

申込期限 7月17日まで

牛乳パックから小物入れ作り

日時 8月13日（水）13:00～15:30

場所 三鷹市リサイクル市民工房

対象 小学生 低学年は保護者同伴

定員 8名（抽選）無料

申込・問合せ ごみ対策課 内線2535

夏季自然教室「里山、谷戸田観察会」

日時 8月20日（水）場所 都立小峰公園

対象 小学生3歳以上の児童とその保護者

定員 10組20人 詳細 市報7月20日号

内容 谷戸田の生物観察など

問合せ 三鷹市環境対策課 内線2523

不要のTシャツからエコ布ぞうり作り

7月と8月はお休みです。

問合せ 三鷹市ごみ対策課 内線2535

ご意見ご感想をお知らせください。

このニュースレター発行も2回目となりました。

読んでくださる方々からのご意見がいただければ幸いです。環境対策課にご連絡ください。

発行：みたか環境活動推進会議

連絡先：三鷹市環境対策課

電話 0422-45-1151 内線2523・2524

E-mail : kankyo@city.mitaka.tokyo.jp

みたか環境ひろば

第2号

2008年7月1日発行

野川の自然と野鳥たち



カワセミ 一年を通しています



オシドリ 冬には野生のオシドリの姿も



ベニマシコ 春、武田秀己さんが撮影

野川は、国分寺の日立中央研究所の大池などを源泉にして、国分寺崖線の湧水を集め、国分寺、小金井、三鷹、調布、狛江、世田谷と流れ、多摩川に注ぐ全長約20kmの川です。30年前は、野川には生活廃水がそのまま流されていたため、「どぶ川」となっていましたが、多くの方々の活動で、今はきれいな川となっています。そこには、いろいろな水辺の生きものが住みついています。このような、豊かな自然環境を観察することは楽しいことです。

三鷹市付近では市の西部にある都立野川公園内を野川が流れています。その野川の左岸（北東側）は、武蔵野段丘の南縁にあたる国分寺崖線に接していて、武蔵野礫層から湧水が流れ出ています。自然観察園や湧き水広場があり、ホタルが自生し、四季折々の野草や水辺の生き物を見るることができます。

少し下流の相曾浦橋脇には湿生花園や大沢の里があり、今もわさび田や田んぼが保存されています。カモたちの姿をよく見かけるところです。さらに下流の飛橋や樺沢橋付近では、カワセミの姿をよく見かけます。冬には野性のオシドリも来ます。葦もあり、3月ごろには、川辺にベニマシコも来ることがあります。野鳥たちの住みよい、いい環境があるのでしょう。（安達）

エコ布ぞうりを作ろう 森眞佐子

大量消費を豊かさと勘違いしていた私達は、地球温暖化という地球上の変化に突き当たり二酸化炭素の削減に誰もが気付けるようになりました。

ごみを減らすとゆうのもその一つです、そこで着古したTシャツで布ぞうりを作りました。今までは古着は利用しても雑巾ぐらいでした。布ぞうりを作る事により、スリッパを買わずに済みます。一足のぞうり



「布ぞうり作り」の講師をされ
てあります。
森さんはごみ対策講座の
「不要のTシャツからエコ

を作るのに大人用Tシャツを二枚使用します。そのTシャツ二枚とスリッパー足分のごみを減らす事が出来ます。家族分作れば、家族分のごみを減らせます。

「もったいない」という日本語が世界共通語になりつつありますが、もったいないから無駄にしない、という精神は、古くから受け継がれてきました。経済が好景気の一時期忘れていたような気がします。

環境問題を考えなければ成らない今、誰にでも出来ることは、ごみを出すときの分別ではないでしょうか。可燃、不燃、古紙、ペットボトル、プラスチックなど等、分別すれば資源になるものは資源に、燃やすものは燃やすことが出来ます。古くなったTシャツも布ぞうりにして、もう一度生かして使いましょう。

我が家のささやかなエコ生活について 長谷川清

私が琉球大学の比嘉照夫先生の講演を聴いたのは平成6年頃だと思います。三鷹市内で消費者グループ等多数の方々と一緒にしました。しかし当時は、行政の最前線の方々や、そして私を含む講演を聴いた多数の方々も素晴らしいはなしですが、現実的な話とは思えませんでした。その後毎年、このEM菌利用の話は本当ではないか、と思えるようになりました。平成12年だと思うが、我が家は試行が始まり現在に至っています。

我が家は2人家族ですが、自家生産の野菜やアカザ・タンポポ等の雑草も食べることと、息子家族が時々来るので野菜屑等の量は3人家族分になると思う。勝手口網戸の風通しの良い所に籠を置き、新聞紙3枚ぐらい敷いて、その上に野菜屑等を入れ1

日~2日でやや乾き始めた時に少しのEMボカシを混合しこれを、既にEMボカシを少し散布しておいたポリ容器に押し込み、またEMボカシを散布してから容器に蓋をし、ベランダに置きます、そして半月~1ヶ月で満杯になったら新しい容器に入れます。この新しい容器が満杯になる1月後頃に最初のポリ容器の中身を土の中に埋める。この繰り返しで土壤が改良され、少しの化学肥料と特製竹酢液だけで良い野菜が出来ます。そしてこんな毎日は小さな庭か7・5坪の市民農園があれば十分に回転して行きます。

また最近は、ダンボールコンポストを2階のベランダで2年程試行しましたが、まだ未完成です。こんな自分流で、自己満足な生活、どなたかやってみませんか?

こんなこと あんなこと

親子ふれあいちびっ子農業体験

6月8日(日)午前中、大沢のほたるの里・三鷹村の水田で、ちびっ子農業体験(田植え)が行われ、保護者同伴で、ちびっ子たちが沢山集まつた。小学校3年生以上が田んぼに入って田植えを体験できました。

横一列に並び、4本の苗をきれいに植えていく。みんなはだして田んぼに入っている。それでも湧水のきれいな水なので、大丈夫なようだ。第7中学校の生徒約15名と校長先生も加わった。

このちびっ子農業体験は、1時間ほどで終わつたが、今年で16回目である。村長の箕輪さんのお話では、「昔は、湧水がもっと沢山湧き出していたので、水温は14度と低



く、野川からはうなぎも上がってきたし、ハヤも来た」とのことです。参加者は、帰りに赤飯とお茶をもらって、帰っていました。秋になると、稻刈りや収穫祭も行われます。また参加しようね。

丸池ツアー

6月14日(土)午前中、丸池の里わくわく村には小学生約250名が集まり、第9回丸池ツアーを楽しみました。遊びを通じて自然に関する知識と公園でのルールを身につけてもらうことを願って行われる自然観察ツアーです。小学生からは、「全部楽しかった!」との声も聞かれました。

有機性廃棄物の資源化

今年3月に改定された「三鷹市ごみ処理総合計画」の中で、ごみ処理の課題を3つあげています。その1つは、「可燃ごみの中では、生ごみの資源化が遅れている」ことです。市内で出る生ごみと、剪定枝を資源化できれば、可燃ごみは半減します。生ごみの資源化には、バイオガス化、飼料化、堆肥化などがありますが、堆肥化は、大規模な施設でなくとも、家庭、公園、学校などで、小規模に始めることができます。市では、家庭用生ごみ処理装置の購入に対する助成、および小学校、保育園2箇所の給食残渣を行い、JA東京武藏と提携した「有機性廃棄物資源循環モデル事業」を行っています。この事業をさらに進めるために、多くの市民が参加する「有機性廃棄物の資源化市民会議」のようなものを設置して検討できればと考えます。(山本)